

平成22年度 磐田市立青城小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察と改善策(○考察、※改善策)	学校関係者 評価委員から
いきいき学ぶ	基礎基本の定着	個を大切に授業に努めたか。	A	○一人一人の個性をつかみ、そのよさを生かし認めながら確かな力を付けることに努めた。また、全職員で特別に支援が必要な子への支援に力を入れることができた。 ※自己肯定感を高める手立てを考えたり、特別に支援が必要な子のニーズに対応するための支援体制・指導方法を工夫したりする。	○学習に取り組む姿勢が向上している。児童は、真剣に教師の話の聞いている。 ○学校評価の「学校が楽しい」の数値が高いのは、「授業が分かる」からであろう。これからもよい授業を。 ●発表の声が小さい。自信をもって言えるようにしたい。 ●学校行事が「見せること」に力を入れ過ぎていないか。授業時間の確保のためにも、発表等を見直したい。
		基礎基本が定着したか。	A	○算数科では習熟度別学習やITなどを行いきめ細かな指導に努め成果があがった。学校評価では、9割前後の児童、保護者が「授業がよく分かる」と答えている。読み取りの力や語彙を増やすことが課題である。 ※全教科において、単元構想を工夫して言語活動の充実を図っていく。	
	「聴き合い、伝え合う授業」の実践	教材研究を深め、積極的に授業研究に取り組んだか。	A	○学年研修体制をベースとして、各々の教材観、授業観、指導観をぶつけ合いながら教材研究を深め、授業研究に取り組むことができた。 ※教材研究を深めるゆとり(時間)を意図的に生み出していく。	
		児童は「いきいきと学び合っている」か。	B	○学校評価の「児童」の項目は、肯定的評価が85.9%であったが、「伝える」という内容の項目では児童・保護者ともに目標としているところまではいかなかった。自分の考えをもち発言につなげるという点では成果があがりつつあるが、伝えようという思いをもって発表するまでには至っていない点が課題である。 ※「伝えたい、聴きたい」という気持ちが高まるように課題意識や必要感を高めていくことや、支援の仕方を工夫することに力を入れていきたい。	
	学習環境の整備	学習にふさわしい環境となっているか。	A	○安心して学ぶことができる学習環境づくりや、学び舎にふさわしい言語環境づくりに努めた。学校評価でも「保護者」が「学校は、学習にふさわしい環境づくりにつとめている」の肯定的評価が93.8%(昨年91.8%)という結果が出ている。 ※引き続き、清楚で知的な学習環境づくりに努める。	
	表現の場の充実	学習成果を積極的に公開する場をもったか。	B	○運動会、学習発表会、参観会、各種行事等で、学習成果を公開し、児童は、自信をつけ自己肯定感を高めることができた。保護者も、児童の成長を感じることができた。 ※新学習指導要領実施の来年は、学習発表会等の行事の持ち方を見直し、授業の充実を図りながら無理のない範囲で表現の場を設定していく。	
	読書の推進	「必読図書、読破80%」の目標を達成できたか。	B	○朝読書や読み聞かせ等の読書指導は充実し、朝読書の時間等は落ち着いて読書をする姿が見られた。 ※高学年は個人差が大きく、数値目標80%には達しなかった。高学年に対しては、時間をかけて良書を読破できるように読書意欲の向上を図っていききたい。	
きらきら感じる	基盤となる学級づくり	信頼関係づくり、学級の絆づくりや学級文化の醸成に努めたか。	A	○一人一人の思いを聴くことに心掛け、児童と児童、教師と児童の信頼関係づくりに努めるとともに、行事や裁量の時間を有効活用して学級の絆づくりを行ってきた。1年を通して「不登校児童0」、いじめや生徒指導上の問題も少ないという成果を上げた。学校評価(児童)では、「学校が楽しい」割合が95%と、高い数値であった。 ※教師と児童がふれあうゆとり、じっくりと個別指導ができるゆとりをつくっていく。	○落ち着いて生活している。 ○幼稚園、小学校、中学校が連携するとともに、学校、家庭、地域が一体となったあいさつ運動をした。 ●場に合った言葉遣いができていない子が見られる。教師と子どもは、「友だち」のような関係になってはいけない。
	規範意識の向上を図る	心に響く指導を心掛けたり、指導の重点を絞って徹底して指導したりすることにより、規範意識が高まったか。	B	○全校の児童は全職員で見守り支援するというスタンスに立ち、継続した指導をした結果、児童は落ち着いた学校生活を送ることができた。生活のめあてを絞り、月代わりで重点を設けて繰り返し指導してきた成果も表れている。「廊下の歩行」については指導を強化したい。 ※教師間で指導のばらつきが生まれないように、共通理解を図り、徹底した指導を行うとともに、よい表れにも目を向け、認め励まし、浸透させていく。	
	心にひびくあいさつの向上	子どもたちは、あいさつを元気よくしているか。	B	○朝のあいさつ運動を始めとして、あいさつ練習や会釈の励行、朝のあいさつ練習などいろいろな手立てを講じてきた。特効薬はないが、少しずつ成果が見られつつある。 ※家庭との連携を強め、引き続き「あいさつ運動」を推進するとともに、いろいろな手立てを試し、意識化を図っていく。	
	言語環境を整える	場に合った言葉づかいの指導ができたか。	B	○場にふさわしい言葉づかいを教えてきたが、学校評価「保護者」63.3%(昨年度58.9%)という結果が出ているように、まだ十分でない。 ※日常生活の中で言葉遣いを指導できる場をたくさん設定し、繰り返し教えて身に付けさせていく。	
	異学年児童のふれあいを大切に活動の工夫	子どもたちは、仲良く助け合って活動しているか。	A	○縦割り遊び、縦割り清掃等の年間を通した縦割り活動により、リーダー性や自尊感情、思いやりの心を育み、勤労と奉仕の心を豊かにすることができた。 ※縦割り活動がややマンネリ化してきている。活性化を図りたい。	
	中学校区・幼稚園との交流推進	交流の場を意図的にもつことで、自己肯定感を高め、思いやりの心を育てることができたか。	B	○幼稚園、保育園との交流については、1、3、5年生で計画的に実施でき、思いやりの心を培うことができた。 ※他校との交流は、6年生で実施した。教師間の情報交換の場を増やし他学年での交流活動の可能性を探っていききたい。	
	学校環境の美化	「きれいな学校」を目指して環境整備ができたか。	A	○より安全で、きれいで洗練された教育環境づくりに努めた。 ※不易と流行を見極め、教育的価値や効果を考え環境作りを進める。	
ぐんぐん鍛える	健康・体力づくりの推進	健康づくりの意識化、体力づくりの習慣化が図られたか。	A	○健康タイム等での養護教諭を中心とした保健指導により、健康に対する意識を高めることができた。体育的行事(運動会及び持久走、リレー、長縄、短縄、ドッジボールの大会など)が児童の目標となり、児童は、休み時間などに進んで運動することができた。 ※体力づくりの核となる運動(日常的に体力作りに取り組むことができるようにと学年団ごとに設定したもの)の見直しを図る。	○思った以上に朝ごはんを食べているようで安心した。 ●登下校について、下校が途中からばらばらになることや不審者対応に注意を払ってほしい。 ●体格に合った机・いすの高さに。
	食生活や生活習慣の向上	「朝食の欠食率0%」の数値目標を達成できたか。	B	○学校評価の「毎日朝ごはんをしっかり食べている」の項目では、昨年度より少しポイントが増え児童97%、保護者96.1%であった。 ※100%を目指し、家庭への啓発に引き続き力を入れたい。	
	危機管理意識の向上	「交通事故0%」の数値目標を達成できたか。	B	○大きな事故・怪我はなかったが、交通事故は1件あった。 ※集団登校の指導を始めとして交通安全指導を計画的に行う。また、校内で落ち着いた生活ができるように、室内での過ごし方や廊下歩行の指導を徹底する。	
	疾病の早期治療の推進	「100%の治療」の数値目標を達成できたか。	B	○健康タイム等での指導やお便りで治療を呼び掛け、高い達成率を実現できた。 ※引き続き、児童や保護者への啓発に努める。	

学校関係者評価を受けてのまとめ

本年度の教育活動、ならびに学校評価と考察、改善策については、概ね理解と評価を得ることができた。学習面では、自信をもったいきいきと学合う子の育成を目指して、一人一人に寄り添ったきめ細かな指導に努めていきたい。「あいさつ」、「言葉づかい」や安全面など、まだ指導が十分でない点については、家庭・地域との連携を深めながら、指導の徹底を図っていく必要がある。新学習指導要領実施の来年は、「確かな学力」を保障するとともに、ゆとりと活力のあるバランスのとれた教育活動となるよう教育課程を計画・実践していきたい。